

十和田市事務事業評価シート

担当課名	南公民館
------	------

【事務事業の種類と位置づけ】

市総合計画 実施計画番号	23	整理番号	43
基本目標	豊かな心をはぐくむ「こころ感動・創造都市」		
施策の展開方向	生涯学習の推進		
事務事業名	地域活動の推進		
事務の種類	自治事務	根拠法令等	社会教育法
関連する事務事業			

【人件費の推移(概算)】

		21年度実績	22年度実績	23年度計画
正職員	従事者数(人)	3	3	3
	活動日数(日)	5	5	5
	人件費(千円)	540	540	540
正職員以外	従事者数(人)	3	3	3
	活動日数(日)	5	5	5
非常勤職員	人件費(千円)	111	111	111

【事業費の推移】

事業費合計(千円)	21年度実績	22年度実績	23年度計画
	64	67	76
うち一般財源	64	67	76
うち国県支出金			
うち地方債			
うちその他			

【事務事業の概要】

対象 (誰(何)を対象として行うのか)	南地区(南小学区・藤小学区)を主とする市民
意図 (対象をどういう状態にしたいか)	南地区コミュニティ推進協議会との協働により、地域コミュニティ活動の推進を図る。
手段 (どのようなやり方で行うのか)	南地区コミュニティ推進協議会等と共催で公民館まつりの開催や、地域活動支援講座を開設する。

【指標】

活動指標 (活動の規模)	活動指標名	公民館まつり参加者				
	計算式等	単位	21年度実績	22年度実績	23年度計画	
	参加者数	人	4,500	4,500	4,700	
成果指標 (意図をどの程度達成しているか)	成果指標名	公民館まつり参加者				
	計算式等	単位	21年度	22年度	23年度	
		人	目標値	4,700	4,700	4,700
			実績値	4,500	4,500	
			達成度(%)	96%	96%	
	成果指標名					
	計算式等	単位	21年度	22年度	23年度	
		目標値				
		実績値				
		達成度(%)				

十和田市事務事業評価シート

整理No	43
計画No	23

【担当課による検証】

ポイント		検証	評価	点数	合計	検証の理由		
妥当性	市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	存在意義の見直しの余地 0 / 4		
	実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合しているか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2		南地区コミュニティ推進協議会等と共催し、公民館利用団体や公民館講座受講生の学習成果の発表の場として、公民館まつりを開催。また、地域交流の場としても妥当性は十分にあると考えられる。		
有効性	活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	5	成果向上の余地 1 / 6		
	成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2		公民館まつりの参加者数は横ばいであるが、コミュニティ活動は順調に推移しており、公民館の環境整備や地域の防犯活動等にも積極的に取り組んでいる。		
	事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	B	1				
効率性	事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である 実施済	A	2	6	コスト削減の余地 0 / 6		
	他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である 実施済	A	2		南地区コミュニティ推進協議会や南地区体育振興会等との共催で学習成果発表の場や地域住民の交流の場として公民館まつりを開催。その他のコミュニティ活動も積極的に行われており、コスト削減以上の成果を上げていると思われる。		
	民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である 実施済	A	2				
公平性	受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	受益者負担適正化の余地 0 / 4		
	受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2		南地区コミュニティ推進協議会等5団体と共催で公民館まつりを開催している。また、コミュニティ広場や公民館内では子どもたちにも安心・安全な活動の場を提供しており、誰でも、いつでも気軽に利用できる施設として受益の偏りはない。		
					現在の適性	19 / 20	改善の余地	1 / 20

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **19** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **1** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の平成24年度の方向性

有効性を改善して継続

方向性の理由

これまでの事業に対する地域住民のニーズを検証し、事業の継続や新規事業の検討を図る。

今後の具体的な取り組み方策と狙う効果

地域住民及びコミュニティ推進協議会等関係団体との懇談の場をもち意向の確認に努めるとともに、他の施設等の事業状況についての調査・研究を実施する。